

# 子供の遊戯と表情

三 浦 ひ ろ

## 遊戯と表情

遊戯の中には表情遊戯といふ一類があるものとして取扱つてゐる人があります。しかし私は遊戯の分野にさういふものがあるのかないのかわりません。私は只すべての遊戯は表情遊戯だといふ斷定のもとに考へを進めてゆき度いと思ふのであります。そしてなほ私は、其の表情といふ眞意は人格の表れだといふにさへ考へてゆき度いのであります。つまり表情遊戯といふのは特別なしなを作ることではなくて自分の人格を、もつと簡單に言へば時に表情遊戯といふ言葉が、或は概念が、何かか

う一つの詩を手先又は顔面の運動の變化によつて翻譯せられたものゝやうに考へられてゐるやうであります。ですから子供の爲の表情遊戯には唱歌の歌詞を動作によつて言ひ表さうとしたのが多いのでありまして、所謂振といへば大抵かうした種類のものを意味してゐると考へても大した誤はないうやうであります。中には表情といふ事はしなをする事だとさへ考へてゐる人がありさうに思はれます。

しかしそれは私の考へからいひますと大變に誤つた事のやうです。私はいつも我々の一舉手一投足がすべて私の表れだと心得てゐますから何も特

別なしなどする事が表情などとは考へられないのであります。かへつて手足のわざに極限せられたやうな動作は大きい何かしら嚴かな意味の表情ではないやうに考へられて居ります。

繪絹に染められた一つの線が大山の趣きを立派に味はして呉れますでせう。大理石に加へられた一片ののみが美の極致を示してくれる事もありませう。

しかし美しい友禪の布に描かれた極彩色の繪が目先の美さの外に我々のたましひに迄呼びかけるやうな力強いものを與へてはくれません。友禪模様と所謂表情遊戯とを比較したりしては、大變にすまないやうな氣も致しますけれども、やつぱり何處か似通つた點を感じるものがないとは言へません。とにかく私のいひ度い表情遊戯とは我々の身體的動作(即ち遊戯と稱せらるべき範圍の)が我々の心を十分に盛つてゐるものでなければならぬ

のであります、即ち其の動作を通して其の人格の仄きを見ることの出来るものでありたいのであります。

### 表情の種類

こゝに考察の順序として表情の種類について考へてみたいと思ひます。勿論種々の方面からいふ事の出来る問題でありまして立脚點を異にすれば多方面から考へる事が出来るのでありますが、今茲では大きく二別致しまして、一は動く表情と、一は動かぬ表情といふことにしてみたいと思ひます。これは單なる一つの動作、例へば脚を前に上げるといつた様なものに於いては適用されないのです。一つのまとまつた遊戯として表れる場合の表情なのであります。

動く表情といふのは即ち遊戯の材料が活かせる場合の表情で、つまり或一定の變化を伴つたものを意味するので「フランスの王様」に表れる兵

士の表情などは誠に簡單ではあるのですが、この動く表情でなければならぬのであります。

動かぬ表情といつたのは丁度前の場合と相反した時で、動かぬ材料を取扱ふべき場合に起る表情で、終始一貫して無表情であることなのであります。例へば「鉛の兵隊さん」が教練をしてゐるところ、又は人形が種々のステップを練習するといつたやうな材料であれば、鉛の兵隊も人形もいづれも作られたものであつて無表情である筈なのであります。でこれ等の材料に接した場合にやたらに表情を作るやうな事があればかへつて不自然な技巧となつてしまひます。どうしたつて無表情の表情を以つて終始されなければならぬ筈のものでありませう。しかし無表情の表情とこゝで言ふのは決して表情が無いと言ふ事を意味してゐるのではなくて、所謂表情のないと言ふ表情なのであります。

すべての遊戯が表情遊戯だと考へるといふ私の考へでゆきますと、遊戯はこれ等の何れかの表情を持つてゐなければならぬ筈であります。

そして材料の性質によつてこれ等の表情が最も自然に表れるやうでなければならぬので、動く表情は一つの材料を通して一貫した生命を持つた動き方でなくてはならないし、動かぬ表情も亦一つの遊戯材料中一脈を作つてゐなければならぬものです。

これは子供の爲の遊戯の新しい振をつける時、又は材料を選択する爲に大切な事であると思ひます。

### 子供の遊戯と表情

子供は子供の人格を有してゐます。それは誰でも知つてゐる筈です。ですから遊戯が我々の全人格を盛り込んだものであるならば、子供の遊戯は子供の全人格を盛り込んだものでなければならぬ

いのであります。子供の人格が、子供のたましひが漲るやうに充されてはじめて子供の遊戯は子供の遊戯として生きて參ります。私達は若々しい子供に、生々した子供に大人の表情を盛らうとするやうな大膽さを持つてはならないのです。ところが愛撫の力が強すぎてか、ともすれば一刻も早く大人にしようとする苦心してゐるかのやうに、大人は大人らしさを子供に注ぎ込みます。私はこの事を特に所謂表情遊戯とよんで子供に課してゐる遊戯中にかなり度々認めます。

表情遊戯と稱してゐるもの許りではなくて、唱歌遊戯といつたり律動遊戯と呼んだりしてゐるものゝ中にも随分澤山さういふ弊が現れてゐはしないでせうか。

或はいふでせう「これは子供の要求であり、子供の示す動作なのだから子供の自然に背いてはならない」と。

子供は暗示にすぐかゝります。それは兒童心理學の示す處、極めて明白な事です。大人は自分の考へてゐる事を證し立てる爲に知らず識らずの中に子供に暗示を與へて、それに容易にかゝつた子供の動作なり要求なりをいつの間にか子供自身の自然の要求だと考へたり、彼等の眞摯な叫びだと思ひ誤つた點はないでせうか。私は實際に遊戯についてさういつた經驗はありませんけれど、國語の時間等にかういつた體驗を用心しながらも何度繰返したか知れませんでした。自分と同じ感激を以つて文が味つてほしいといふ我儘から、うっかり上手に暗示を使つて兒童をそれにかけてしまつてさてさうした無理な技巧を用ひた事を忘れてしまひ、子供の感激が自分の求めたものと合つたやうに考へてしまひます。しかし之は大變に危険な事であつたと思ひます。これは國語の時間の一例にすぎませんが、大人對子供の日常にかういふ事

件は數へ切れない程あるのです。ところがもう一つ困つた事は、子供は非常に模倣性の強いものです。善い事によらず、悪い事によらず模倣いたします。たとへ材料が大人のものにしろ、自分達子供に不適當だらうかなどと理窟ををこねる間もなくすぐに模倣してしまひます。ですから不自然な動作であらうが、小細工式な表情であらうが、巧みに眞似をしてしまひます。しかしこれが非常に私達の心を用ひなくてはならない所で、眞似が出来るからといつて眞似許りさせなければならぬといふことは無いのです。消化して子供のものとなる爲の眞似でしたら避けるべきではありませんが、所謂眞似に終る眞似をさせる必要はないのです。ところがこゝに又我々大人の弱點があつて、子供がその本能を満足させる爲にある模倣の巧みさにひかれてこれを子供の眞の要求のやうに誤認するこ

とがあります。この子供に模倣性の強いといふ事

は非常に大事な事であると共に、又危険な事であるのです。

かういつた危険な事態によつて間違はれた振付が遊戯の中にも這入つてはゐないものでせうか。私は現在の幼稚園又は小學校などの唱歌遊戯等の中に、こんな危険を感じてゐる點が随分あるのですが。

そこで私達のやうに子供の爲に一日を尊く送つてゆく者は、かうした危険に近づかない様に警戒しなければならぬと思ひます。「子供の爲の遊戯とは子供の人格を盛り込んだもの」といふ事を標語のやうに進んでゆき度いと思ひます。

#### 表情はものの自然の捉へて

それには第一に技巧的表情を避けなければならぬのです。——こゝで私のいふ表情は顔面の表情と言ふ意味ではなくて、體全體を指すのです。

——技巧的の表情は或時は綺麗に見えるでせう。

しかし打ち込まれた魂から来る力強い光がありません。それはものゝ真情にふれてないからです。ものゝ自然の姿にふれてないからです。見てゐて空虚な感じが起らずにはゐないでせう。技巧的な表情は大きさを持つてはゐませんですから、さうした表情を表す爲に用ひられる動作はきまつて小さくなります。繊細な動作の持つ力より、私は子供の爲には素描の繪の持つ力を與へたいのです。友禪染の細い繪を美しいと見る眼を轉じて子供のかくの字メの字の持つ力を味つてゆき度いのです。

技巧を捨て、ものゝ自然を捕へ 更に子供の自然を十分に研究してゆかなければ子供の遊戯もいつか大人の表情をもつたもの、つまり子供の着物を着た大人のやうな不自然を表して、立派な子供の藝術から遙かにはなれたものとなつてしまひませう。

